

「図書館司書課程における遠隔授業の取り組み」

西日本図書館学会『図書館学』 投稿原稿（要綱）

富山短期大学
東野 善男

目次

- はじめに
- 富山短期大学の図書館司書課程
- 遠隔授業の取り組み
 - 遠隔授業とは何か
 - 文部科学省からの通知に見る遠隔授業
 - 遠隔授業の種類
 - 遠隔授業を準備する
 - 必要な機材
 - 組み合わせると効果的なIT環境
 - 司書課程における実施体験を振り返る
 - アンケートの実施（1・2年生司書課程）
 - 実施体験の振り返り
 - 司書課程の発展性
 - 参考文献（要綱では略）

1. はじめに

本稿では、図書館司書課程（以下、「**司書課程**」という）における遠隔授業の取り組みについて考察する。新型コロナウイルス対策に伴う緊急事態宣言の影響下、前期開講は、当初2020（令和2）年4月9日（木）を予定していたが、5月11日（月）に延期となる。更に、異例の事態ではあるが、対面授業の再開時期が見込まれないまま遠隔授業での開始となる。

司書課程の担当者である筆者は、前期授業開始までを準備期間と位置付け、「富山短期大学Webシラバスシステム」（以下、「**Webシラバス**」という）を基本ツールとしながらも、Zoom（オンライン会議システム）を活用した授業を実施する環境を確認し、機材も揃えている。この中には、Googleドライブなど組み合わせると効果的なITツールも含まれる。

授業の中で筆者が気づいた点に加え、学生の感想を織り交ぜながら実施内容を整理した上で、成果を検証しておく。想定外の状況下における遠隔授業への取り組みを記録し、検証しておくことで、関係者と共有することを目的としている。多くの教育機関で取り組んでいることは理解した上での記録作成である。

2. 富山短期大学の図書館司書課程

富山短期大学は、その創立当初から司書課程を設置し、県内唯一の司書養成機関として50年以上の歴史を有する。司書課程は2001（平成13）年の文学科（英文専攻・国文専攻）の廃止後は、経営情報学科に設置され、現在に至る。

経営情報学科のディプロマ・ポリシーには、次のような力を身につけることを掲げている。

- ①健康で豊かな人間性と真摯な人間関係力・協働力
- ②社会常識・マナーをわきまえた、責任ある行動力
- ③自ら主体的に学び、考え、実践する能力と、学び続ける姿勢
- ④経済・経営、簿記・会計、情報、ビジネス実務等の実践的知識・技能と実践力

司書課程を担当する筆者（2018年度赴任）は、経営情報学科に配属しているため、他の10名の専任教員同様、司書課程設置科目だけではなく、学科教育課程の科目も担当している。授業科目で言えば、教養演習Ⅰ・Ⅱ（いわゆる教養ゼミ）、専門演習Ⅰ・Ⅱ（いわゆる専門ゼミ）である。学生には上記4つの力をつけた上で、卒業させることを目標としている。

当然ながら、司書課程においても、4つのスキルを養成することになる。中でも、人間関係力や協働力と同時に実務経験を学生に身につけさせるために、2018年度から実施しているのが、「フィールドスタディ」である。直近の2年間は、地域活性化事業として古本市を実施した。また、選択科目「図書館実習」（2021年度実施予定）の開講準備にも取り組んでいる。

	履修者（名）		資格取得者（名）	
	1年前期時点		卒業時	
2016年度生	13		11	
2017年度生	21		13	
2018年度生	23		16	
2019年度生	27		22	
				(2年前期時点)
2020年度生	37		不明	

【表1】司書課程受講者数推移（直近5年）

3. 遠隔授業の取り組み

本章では、遠隔授業の定義を文部科学省通知から考察した上で、司書課程で対応できる状態を模索している。ただし、司書課程科目のうち学科教育課程の科目、すなわち卒業要件62単位に含まれるのは、教養科目としての「図書館概論」（2単位）、「生涯学習概論」（2単位）、専門科目としての「図書館情報技術論」（2単位）の合計6単位である。

3-1. 遠隔授業とは何か

3-1-1. 文部科学省からの通知に見る遠隔授業

2020（令和2）年3月24日、文部科学省高等教育局長より「令和2年度における大学等の授業の開始等について」の通知を受け、対面授業に代わる遠隔講義の準備を開始している。この通知には、新型コロナウイルス感染症対策に係る、大学等における授業の開始に際して留意する事項として、遠隔授業の活用が明記されている。遠隔授業は、対面により行う講義や演習等の授業（「面接授業」と呼ばれる）の代替として、位置づけられている。遠隔授業により修得する単位数は、短期大学設置基準第18条第3項等の規定により、卒業要件62単位中30単位を超えないものとして上限が設定されている。一方では、面接授業の一部として遠隔授業を取り扱う「併用授業」であれば、上記上限の算定には含まれない。また、遠隔授業として、2点の具体例（筆者が一部抜粋）が挙げられている。

・テレビ会議システムを用いた遠隔授業の例

テレビ会議システムを利用して講義をリアルタイム配信し、学生は教室以外の場所（自宅を含む。）において、PCや携帯電話からインターネットに接続し受講。テレビ会議システムによって、教員と学生が、互いに映像・音声等による質疑応答や意見交換を行う。

・オンライン教材（MOOC等）を用いた遠隔授業の例

スライド教材や講義形式の動画等を教材としてe-learningシステム等を準備し、学生は教室以外の場所（自宅を含む。）において、PCや携帯電話からインターネットに接続し、随時受講。学生からの課題提出や質問の受付及び回答、学生間の意見交換等についても、インターネット等を通じて行う。

課題として、新型コロナウイルス感染症対策として実施される遠隔授業は、学内での十分な理解の下で取り込む必要があるため、経営部門、教学部門、情報部門との連携や、著作物利用への配慮が求められている。

3-1-2. 遠隔授業の種類

遠隔授業の概要を把握した上で、教員と学生による時間と空間の共有という観点から整理をし、授業準備を開始している。その際、資料として、文部科学省高等教育局大学振興課からの事務連絡「学事日程等の取扱い及び遠隔授業の活用に係るQ&A等の送付について」（4月1日付）と文部科学省高等教育局長からの「大学等における臨時休業の実施に係る考え方等について（周知）」（4月1日付）を参考にしている。**メディア授業告示第2号（※注1）**によれば、遠隔授業に必要な要素として、教員による十分な指導と学生同士の意見交換の機会があげられている。言い換えれば、「質疑応答」と「グループワーク」である。

以上のことから、【表2】の作成にあたっては、「講義」だけでなく、「質疑応答」「グループワーク」の2項目も合わせて比較できるようにしている。

	授業の内容							(B) 空間の共有	(B-1) 教員	(B-2) 学生
	(A) 時間の共有	(A-1) 講義		(A-2) 質疑応答		(A-3) グループワーク				
		同時性	オンライン	同時性	オンライン	同時性	オンライン			
①面接授業	○	○	×	○	×	○	×	○	教室	教室
②遠隔授業 (A)	○	○ LIVE配信	○	○	○	○	○	×	学内	自宅
③遠隔授業 (B)	○	×	○	事後	○	事後	○	×	学内	自宅
④遠隔授業 (C)	○	×	×	事後	○	事後	○	×	学内	自宅
⑤遠隔授業 (D)	×	×	×	事後	×	×	×	×	学内	自宅

【表2】面接授業と比較した遠隔授業（講義型）の種別一覧

これまで、筆者が実施してきた面接授業は、対面授業とも呼ばれる。教科書を使用した講義授業や教室内の演習授業が多い。全学科で導入している基本ツールとしての「Web シラバス」は、スマートフォンやタブレット端末を利用して、自宅などの学外からも授業内容の確認や、授業で用いた資料へのアクセス、デジタル形式の課題の提出などができる。また、毎授業ごとに次の7項目のアンケート提出を可能としている。

- (1) 今日の授業の内容はどの程度理解できましたか。(4択)
- (2) 今日の授業の内容に興味・関心がもてましたか。(4択)
- (3) 今日の授業に積極的に取り組みましたか。(4択)
- (4) 今日の授業に関する授業外学修時間を入力してください。(4択)
- (5) 今日の授業で、あなたが学んだことの中で一番重要なことは何ですか。
- (6) 最後に、どのような疑問が一番頭に残っていますか。
- (7) その他(感想・意見・要望など)、自由に記述してください。

したがって、学生は教室で挙手することなく、「Web シラバス」を利用することで、教員に対して質問や感想を伝えることができる。

それでは、【表2】②～⑤遠隔授業(A)～(D)の中から、①面接授業に代わる授業を考えるため、順に見ていくことにする。

はじめに、②遠隔授業(A)は、テレビ会議システムを利用した同時(LIVE)かつ双方向型の遠隔授業を指す。LIVE配信の講義を受講後、お互いの顔を確認しながら質疑応答ができる。例えば、Zoomを利用すればチャットでの質問やデータの画面共有などの機能も活用できるため、効率よく学習できるメリットがある。ただし、学生側の自宅と、教員側は教室・研究室・自宅のいずれかをつなぐため、通信環境によっては、映像や音声途切れる点をデメリットとして挙げる。

次に、③遠隔授業(B)は、オンライン教材を用いたオンデマンド型の遠隔授業を指す。録画配信の場合は、分からない部分を繰り返し視聴できる点をメリットとして挙げる。反対に、疑問が生じても教員にその場ですぐ質問できないというデメリットがある。また、前述のとおり、講義の録画映像を見せるだけではメディアを利用して行う授業(※注2)とはみなされないため、学生の意見・質問などへの対応として、例えば、Zoomを活用する必要がある。

このように遠隔授業の中でも、いわゆる「オンライン授業」は、大きく分けて2種類に分けられる。リアルタイムに授業をLIVE配信する「遠隔授業(A)」と録画した授業動画の映像配信をする「遠隔授業(B)」である。「遠隔授業(A)」には通信量の不安、「遠隔授業(B)」には録画映像の準備不足という点を考慮すれば、いずれも積極的な選択は避けたいところである。また、「データダイエットへの協力をお願い:遠隔授業を主催される先

生方へ」というサイト(※注3)を見る限りでは、通信量に配慮した授業の実施・設計手法を説いており、大いに参考としたい。

続いて、④遠隔授業(C)は、オンライン教材は使わず、「Web シラバス」にスライド資料等を掲載したオンデマンド型の遠隔授業を指す。Web シラバスへの課題提出を基本とし、質疑応答やグループワークだけを例えばZoomで実施する。学生にとっては、短期大学が定めた時間割通りではなく、自分のペースで好きな時間に学習できる点がメリットである。

最後に、⑤遠隔授業(D)は、オンライン教材は使わず、「Web シラバス」にスライド資料等を掲載したオンデマンド型の遠隔授業を指す。遠隔授業(C)との違いは、Web シラバスへの課題提出を基本とし、質疑応答もWeb シラバスで行う点にある。ただし、次の2点には配慮する必要がある。(※注4)

- ・事前のガイダンスにおいて、当該授業の目的やねらい、教科書を読むに当たっての留意点や、必要な視点・観点などを示す。

- ・毎回の授業の実施に併せて質疑応答等による指導を行う。

このように見てきた中で、遠隔授業(C)であれば、Zoomの準備が出来次第、司書課程に即対応できると言える。遠隔授業(D)の場合は、これまで通りのオンデマンド型のため、教員が「Web シラバス」に授業計画(授業の概要、学習の目標、使用する教科書、授業回数毎に授業内容の詳細、予習・復習・課題提出に要する標準時間など)を提示した上で、学習が始まる。

結果的に、遠隔授業(C)もしくは遠隔授業(D)のいずれかを選択することになる。

以上【表2】①～⑤は、講義型の事例ではあるが、その他の授業方法としては、演習のパターンもあり、フィールドスタディ(学生は外出しないまま参加するパターン)(※注5)も工夫して実施することはできる。

また、授業科目によっては、遠隔授業と面接授業を組み合わせた授業も想定され、複数の方法によって行う場合は、その複数の方法の割合、すなわちそれぞれの授業回数も異なる。

3-2. 遠隔授業を準備する

学内・学科では特別なテレビ会議システムを導入していないため、遠隔授業の実施にあたってはZoomの活用が当初から考えられていた。Zoomの基本的な利用目的としては、オンライン会議・オンライン講義・オンライン配信が挙げられる。ただし、これまでに授業だけでなく、会議も含め学科内にZoomの利用実績はなかった。そのため必要な機材は、次節で見るように順に確認していかなければならない。

一方では、Zoomの使用にあたっての危険性はささやかれており、そもそも大学の授業用に開発されていないという教員側の意見も当初は聞かれた。

3-2-1. 必要な機材

必要な機材を項目ごとに挙げ、具体的に用意した機種や状況などを列挙する。

①パソコン(以下、「PC」とする)

種類はデスクトップパソコンで、機種名はACER社のVERITON L4630Gである。

②使用場所

授業科目の教室での準備も考えられるが、デスクトップパソコンを主として使用するため、学内にある筆者の研究室で準備した。

③ネット環境

学内LANに有線で接続している。PCは、無線LAN(Wi-Fi)に対応していないが、無線LAN環境を整備するためWi-Fiルーター(バッファロー社 WSR-2533DHP2-CB)も準備している。

④音声(マイク)

PCには、内蔵マイクがないため、自分の声を伝えるために、スピーカーフォン(会議用マイクスピーカー)Jabra社のSpeak 510を購入している。

⑤音声(スピーカー)

PCには、内蔵スピーカーがないため、相手の声を聞くために、スピーカーフォン(会議用マイクスピーカー)Jabra Speak 510を利用。PCにはUSBで簡単に接続できるため、すぐに使用が始められる。さらに、音質が良く、校内における工事現場の騒音でさえ人の声のみを取り出し、クリアな音を相手に伝えることができる。

⑥映像（カメラ）

PCには、外付けカメラが付属していないが、当初自分の姿を映す必要性を感じなかった。後に、タブレットとのUSB接続を試行した際に、Webカメラアプリ iVCam（無料ソフト）を使用し、その後は継続している。

3-2-2. 組み合わせると効果的なIT環境

デジタル形式の課題提出の際、「Webシラバス」を使用しているが、データ容量が1ファイルあたり上限5MBのため、オンラインストレージサービスを活用する機会も度々ある。例えば、「Googleドライブ」では、単独のファイル（ワードデータなど）だけでなく、1つのフォルダを共有することも可能である。ただし、課題提出用フォルダを共有するためには、共有相手である学生にもGoogleアカウントがないと利用できない。

この他に今気づいていないITの仕組みがあったとしても、気づいた段階で足していけば良いという柔軟な姿勢で臨んでいる。

4. 司書課程における実施体験を振り返る

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020（令和2）年4月16日（木）、政府から全都道府県に対して「緊急事態宣言」が発令されている。この発令を受けて、富山県でも活動自粛要請が発せられたため、原則学生は、4月20日（月）以降本学への登校は5月6日（水）まで禁止としている。5月1日（金）には、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と健康・安全確保の観点から、登校禁止期間を延長することになり、5月末日までは遠隔授業、すなわち自宅でのZoomによる受講になっている。

その際、履修登録・変更期間は延長している。また多くの面接授業においては、教科書の使用が前提となっている。そこで、教科書販売は委託先書店に依頼し、自宅郵送にて対応している。教員は、終始キャンパス内に入ることではきたため、自宅の情報通信環境が整っていない学生数名に対しては、例外として、大学に登校するよう伝えている。

機材の準備と並行して、学科内の同意を取り、学生にはメール連絡の上、4月17日（金）から以下の通り、学生との試行を始めた。

実施日	科目名	内容	参加者数
4月17日（金）	専門演習Ⅰ	近況報告	11名
4月21日（火）	専門演習Ⅰ	近況報告	12名
4月28日（火）	専門演習Ⅰ	事前ガイダンス	12名
5月1日（金）	司書課程（2年生）	事前のガイダンス	21名
5月1日（金）	教養演習Ⅰ	事前のガイダンス	11名

4-1. アンケートの実施（1・2年生司書課程）

司書課程の登録者を対象として、学生側のZoom環境を把握するとともに、遠隔授業における環境整備への負担割合を探るためアンケート（全6問 いずれも選択式）を実施した。

	1年生司書課程	2年生司書課程
実施日	5月21日（木）2限	5月25日（月）3限
調査方法	Webシラバスによるアンケート	
調査総数：登録者数	40名	23名
回答者数	39名	23名
回収率	98%	100%

全6問の問題とその集計結果は以下の通りである。人数と各学年別の割合を表示している。ただし、1年生の1名は授業を欠席しており、問題4は1名、問題5は2名が未回答である。

問題1（使用媒体）

「Zoomでの授業に際して使用している媒体は次のうちどれですか。」

	スマホ	タブレット	ノートパソコン	デスクトップパソコン	スマホとノートパソコン
1年生	0	0	38 (97.4%)	0	1 (97.4%)
2年生	4 (17.4%)	2 (8.7%)	3 (13.0%)	1 (4.3%)	13 (56.5%)

問題2（受講している場所）

「受講している場所はどこですか。」

	自室	自室以外自宅	教室	その他
1年生	32 (82.1%)	7 (17.9%)	0	0
2年生	17 (73.9%)	4 (17.4%)	1 (4.3%)	1 (4.3%)

問題3（ネット環境）

「ネット環境は自宅に以前からありましたか。」

	いいえ	はい (Wi-Fi)	はい (モバイルWi-Fiルーター) ※注6	はい (有線)	急遽用意した (Wi-Fi)
1年生	0	36 (92.3%)	2 (5.1%)	0	1 (2.6%)
2年生	2 (8.7%)	18 (78.3%)	2 (8.7%)	0	1 (4.3%)

問題4（音声（オーディオ））

「音声（自分の声を伝えるオーディオ）設定には、どのような機材を使っていますか。」

	内蔵マイク	会議用マイクスピーカー	マイク付きヘッドホン	マイク付きイヤホン	その他
1年生	36 (94.7%)	1 (2.6%)	0	1 (2.6%)	0
2年生	16 (69.6%)	0	1 (4.3%)	4 (17.4%)	2 (8.7%)

問題5（音声（スピーカー））

「音声（相手の声を聞くスピーカー）設定には、どのような機材を使っていますか。」

	内蔵スピーカー	会議用マイクスピーカー	ヘッドホン	イヤホン
1年生	29 (78.4%)	0	1 (2.7%)	7 (18.9%)
2年生	16 (69.6%)	0	0	7 (30.4%)

問題6（映像（カメラ））

「映像（自分の姿を映すためのカメラ）設定には、どのような機材を使っていますか。」

	内蔵カメラ	外付けカメラ	なし	その他
1年生	36 (92.3%)	2 (5.1%)	1 (2.6%)	0
2年生	17 (73.9%)	4 (17.4%)	0	2 (8.7%)

アンケート結果から分かることは、次のとおりである。

①ネット環境について

学生はスマホ主体の生活をしているため、自宅にWi-Fi環境の準備もほぼできている。使用媒体はスマホ・タブレット・ノートパソコンが中心のため有線での接続はないことも分かる。

②使用媒体について

例年これまででは、学科新入生全員にノートパソコンを購入させている。1年生の機種は、富士通社のLIFEBOOK WS1/D2のため、Webカメラとマイクを内蔵している。2年生の機種は、NEC社のVersaPro VKU16のため、Webカメラとマイクを内蔵していない。そのため、スマホをカメラとして活用するために、媒体を複数使用していると回答する学生もいる。機種を選定にあたってこれまででは、マイクとカメラの内蔵について選定項目とはしていない背景もある。

③スピーカーについて

相手の声を聞くために内蔵スピーカーではなく、イヤホンを使っているのは、1・2年生合計14名いる。受講している場所は、自室が11名、自室以外の自宅3名であることからすると、周囲に配慮している訳ではないことが推察される。

④費用について

今回はプラスアルファの出費は、多くなかったと思われる。新たな出費は、Wi-Fi環境の整備2名とWebカメラ付きマイクを購入した1名である。

4-2. 実施体験の振り返り

教員として気づいたことだけでなく、学生の感想（司書課程以外も含む）を追加した記述とすることで、実施体験を振り返りたい。

①ネット環境について

通信量の不安は的中し、学生は講義中に調べものをしてる間に画面がフリーズしたため、音声だけが聞こえている状態になっている。また、その原因がどこにあるかは確かめにくいいため、改善されない。学生は柔軟でもある。Zoomのカメラ映像に映る背景画像で楽しむゆとりがある。学生同士のコミュニケーションは、メールや、LINEなどのSNSで行われている。

②受講している場所について

自宅で受けているため、教室と違い個室空間での受講となり心地よい。一方で、教室では隣に教えてくれる友人がいたので助かったとの感想もある。課題に対する質問は、授業後でも良いが、講義内容のちょっとした質問であれば、その場で聞くほうが良いものもある。授業を聞きながらでも、友人にはLINEを使って「今の意味はどういうこと？」と尋ねることはできるが、タイミングを逃すと後から質問するのも困難である。

③講義について

100人以上が集まって聞く講義はオンラインでも十分である。教室に集まる必要がなかったと感じたようである。出席者の意見を聞くことのない授業科目が該当する。オンラインでの講義中は強制ミュートのため、騒がしくならないため快適であるとの感想もある。一方、少人数授業は、賛否が分かれやすい。

④質疑応答やグループワークについて

オンラインの方が質問しやすいという意見はある。教室での挙手とWebシラバスでの質問の間に位置するのはと考える。Zoomを使ったグループワークに関しては、微かな間が生じやすいデメリットがある。表情が読み取りにくく、話し始めるきっかけを掴むのが難しいためである。

⑤Webシラバスについて

遠隔授業を実施したことで、今まで気づけなかった面接授業での反省も生じている。例えば、授業中にWebシラバスの機能を使って、アンケートを実施したことがある。アンケート結果（クリックすれば円グラフで表示）を確認する際に、全員がWebシラバスで見られると思い込んでいたのだが、教員だけに見える機能であることにはじめて気づかされる。Zoomのチャット機能を使って、学生側には見えないことをひとりの学生から伝えられたのである。あらためて、Zoomの画面共有をすることで解決している。

5. 司書課程の発展性

その後、2020（令和2）年5月25日（月）、国の緊急事態宣言の解除に伴い、本学の授業については、6月1日（月）以降、一部の学科の授業から順次、分散登校による対面方式授業を開始した。担当している授業科目について振り返ってみれば、遠隔授業（C）として、14回実施している。その他遠隔授業（D）は、3回実施している。

科目名	実施日	授業形式
専門演習 I	5/5、5/12、5/19、5/26	遠隔授業（C）
情報資源組織論	5/11、5/18、5/25	遠隔授業（C）
教養演習 I	5/12、5/19（2コマ）、5/26	遠隔授業（C）
図書館概論	5/14、5/21、5/28	遠隔授業（C）
情報サービス論	5/11、5/18、5/25	遠隔授業（D）
図書館制度・経営論	5/15、5/22、5/29	遠隔授業（D）

いずれにしても、図書館司書課程の発展性は求められている。コロナ以前に戻らないことを前提にしながらも、地域社会に貢献できる人材を司書課程の学びを通じて育成することは、今後も最重要な課題であり続ける。

6. 参考文献

（注1）メディア授業告示とは何か

メディア授業告示とは、平成13年文部科学省告示第52号のことで、短期大学設置基準第11条第2項の規定に基づき、短期大学が履修させることができる授業等について定めている。メディア授業告示によれば、メディア授業とは、多様な教材（文字、音声、写真、スライド、動画等）を多様なメディア（Zoom等）を使って配信する「同時」かつ「双方向」の遠隔授業である。授業後には、学生の意見・質問、感想などに十分な指導体制を備えることで、面接授業に相当する教育効果を有するとみなされる。

また、平成13年文部科学省告示第52号は一部改正があり、平成20年4月1日から施行されている。以下の通りである。

通信衛星、光ファイバ等を用いることにより、多様なメディアを高度に利用して、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱うもので、次に掲げるいずれかの要件を満たし、大学において、大学設置基準第二十五条第一項に規定する面接授業に相当する教育効果を有すると認められたものであること。

一 同時かつ双方向に行われるものであって、かつ、授業を行う教室等以外の教室、研究室又はこれらに準ずる場所(大学設置基準第三十一条第一項の規定により単位を授与する場合においては、企業の会議室等の職場又は住居に近い場所を含む。)において履修させるもの

二 毎回の授業の実施に当たって、指導補助者が教室等以外の場所において学生等に対面することにより、又は当該授業を行う教員若しくは指導補助者が当該授業の終了後すみやかにインターネットその他の適切な方法を利用することにより、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を併せ行うものであって、かつ、当該授業に関する学生の意見の交換の機会が確保されているもの

ただし、4年制大学の場合は、平成13年文部科学省告示第51号（大学設置基準第25条第2項の規定に基づく大学が履修させることができる授業等）が該当する。

（以下略）